

世界遺産と縄文

大森勝山遺跡の世界遺産登録に必要なものは？

【主催】

弘前市

【共催】

弘前縄文の会・史跡大森勝山遺跡保存活用推進会議

【後援】

青森県・(一社)弘前文化財保存技術協会

Takasago Shell Midden(Toyako Town)

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、約1万年もの長期間、狩猟・採集・漁撈を行いながら、定住の達成と精神文化を高度に発展させた、世界的にも類を見ない文化の物証となる遺跡群です。現在、関係自治体では、この遺跡群の令和3年(2021)の世界遺産登録を目指し、取り組みを進めており、弘前市の史跡大森勝山遺跡もその一員として、整備と公開活用を進めています。

本シンポジウムでは、国内外から見た縄文文化の価値、そして、世界遺産登録に向けて、縄文遺跡群と大森勝山遺跡に必要とされるものについて、各分野の専門家からご講演いただきます。

Washinoki Site(Mori Town)



【日時】

令和2年(2020)2月11日(火・祝日)午後1時から5時

【会場】

ヒロ口4階 弘前市民文化交流館ホール
(青森県弘前市駅前町9-20)

【入場料】

無料(事前申し込み不要)

Odai-Yamamoto Site(Sotogahama Town)



Tagoyano Shell Midden(Tsugaru City)

Kamegaoka Site(Tsugaru City)

大森勝山遺跡

Omori-Katsuyama Site(Hirosaki City)

【報告】弘前市教育委員会文化財課主幹 岩井浩介

史跡大森勝山遺跡のこれまでとこれから—世界遺産登録に向けて—

【講演】東京国立博物館調査研究課考古室長 品川欣也氏

縄文文化へのまなざし—世界から見た縄文—

【講演】文化庁文化資源活用課世界文化遺産部門文化財調査官 鈴木地平氏

縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて必要なこと—近年の動向から—

【パネルディスカッション】

世界文化遺産登録に向けて、縄文遺跡群と大森勝山遺跡に求められるもの

コーディネーター

青森県企画政策部理事(世界文化遺産登録推進室長) 岡田康博氏

Oyu Stone Circles(Kazuno City)

【お問い合わせ先】

Iscotai Site(Kitaakita City)

弘前市教育委員会文化財課

青森県弘前市賀田1丁目1-1

☎0172-82-1642(平日8:30~17:00)

● Component Parts

● Associated Sites

Hokkaido

Kiusu Earthwork Burial Circles(Choshi City)

Kitakogane Shell Midden(Mate City)

Ofune Site(Hakodate City)

Kakinoshina Site(Hakodate City)

Sannai Maruyama Site(Mori City)

Komakino Site(Aomori City)

Futatsumori Shell Midden(Shichinohe Town)

Choshichiyachi Shell Midden(Hachinohe City)

Korekawa Site(Hachinohe City)

Goshono Site(Miinohe Town)

Iwate Prefecture

Akita Prefecture

【プログラム】

- 12:00 開場・受付開始
- 13:00 【開会挨拶】 弘前市長 櫻田宏
- 13:05 【報告】 弘前市教育委員会文化財課主幹 岩井浩介
史跡大森勝山遺跡のこれまでとこれから—世界遺産登録に向けて—
- 13:50 休憩
- 14:00 【講演】 東京国立博物館調査研究課考古室長 品川欣也氏
縄文文化へのまなざし—世界から見た縄文—
- 14:45 休憩
- 14:55 【講演】 文化庁文化資源活用課世界文化遺産部門文化財調査官 鈴木地平氏
縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて必要なこと—近年の動向から—
- 15:40 休憩
- 15:50 【パネルディスカッション】
世界文化遺産登録に向けて、縄文遺跡群と大森勝山遺跡に求められるもの
コーディネーター 青森県企画政策部理事（世界文化遺産登録推進室長）岡田康博氏
パネリスト 品川欣也氏、鈴木地平氏、岩井浩介
- 16:55 【閉会挨拶】 弘前市教育委員会教育長 吉田健

【講演者紹介】

岩井 浩介

青森県弘前市教育委員会文化財課主幹兼埋蔵文化財係長

1977年、青森県南津軽郡尾上町（現平川市）生まれ。金沢大学文学部卒。1999年弘前市採用後、堀越城跡・大森勝山遺跡の調査・整備・活用等を担当。在職中に弘前大学大学院地域社会研究科博士課程単位取得満期退学。主な専門分野は北東北の古代・中近世考古学。主な著作に、2010年「大森勝山遺跡」『発掘された日本列島 2010』文化庁編、2014年「『北のまほろば』と「地下三尺」の現在」『津軽学9号 北のまほろば津軽再発見』津軽に学ぶ会、2016年「史跡大森勝山遺跡の概要—「昭和」と「平成」、2つの調査成果から—」『大森勝山遺跡シンポジウム—環状列石・縄文文化・岩木山—資料集』弘前市教育委員会等がある。



品川 欣也氏

国立文化財機構東京国立博物館学芸研究部調査研究課考古室長・文化財活用センター貸与促進担当室長

1975年、青森県南津軽郡田舎館村生まれ。明治大学大学院文学研究科史学専攻考古学専修修了後、明治大学文学部助手、明治大学校地内遺跡調査団調査研究員を経て、現職。主な専門分野は日本考古学、北日本、縄文時代・弥生時代、土器、土偶、土偶形容器、顔面付壺形土器、葬墓祭祀。主な著作に、2004年「土偶と石棒からみた縄文祭祀のゆくえ」『季刊考古学 第86号』雄山閣、2005年「砂沢式土器の細分と五所式土器の位置づけ」『関東・東北弥生土器と北海道続縄文土器の広域編年』等がある。

鈴木 地平氏

文化庁文化資源活用課世界文化遺産部門文化財調査官

1980年、京都市生まれ。京都大学大学院文学研究科、文化庁文化財部記念物課文化的景観部門文部科学技官を経て、現職。在職中に高崎経済大学大学院地域政策研究科修了。博士（地域政策学）。主な専門分野は、歴史地理学、地域政策学、文化財保存。主な著作に、2010年『都市の文化と景観』同成社（共著）、2018年『世界文化遺産の思想』東京大学出版会（分担執筆）、2018年「OUVは何処にある？」『景観史と歴史地理学』吉川弘文館等がある。



岡田 康博氏

青森県企画政策部理事（世界文化遺産登録推進室長事務取扱）

青森県弘前市生まれ。弘前大学教育学部卒。青森県教育庁埋蔵文化財調査センター採用後、県内の遺跡調査に携わり、1992年から三内丸山遺跡の発掘調査責任者となり調査・研究等を手がける。2002年4月から2006年3月まで文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部門文化財調査官を務め、2006年4月青森県復帰。青森県教育庁文化財保護課長を経て、2015年11月より青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室長を務める。主な著作に、2014年『三内丸山遺跡—復元された東北の縄文大集落—』同成社、2000年『遙かなる縄文の声—三内丸山を掘る—』NHK ブックス等がある。

